



題字 故橋野宗順先生筆  
 発行  
 茶道裏千家淡交會  
 小樽青年部  
 小樽市桜2-9-6  
 熊谷抄織方

利休居士道歌  
 稽古とは  
 一より習ひ十を知り  
 十よりかへる  
 もとのその一

ご挨拶



茶道裏千家淡交會小樽青年部

部長 熊谷抄織

青年部が新体制となり早いもので一年が経過致しました。小樽支部の先生方、先輩方、青年部部員の皆さん方のご尽力のお蔭で、なんとか無事部長として一年を過ごす事が出来ました。本当にありがとうございました。

昨年は部長をはじめ青年部役員も新しいメンバーとなり、皆それぞれが初めての事に挑戦する年となりました。そんな中でもお互いに助け合い、声を掛け合って活動する、そのような事が自然に出来

る仲間がいる事に改めて感謝する次第でございます。

昨年十二月に京都で開催された全国代表者会議に出席した際、御家元のお話の中で「過去を通じて今になり明日へとつながる」というお言葉が私の心に大変響きました。常に今に基軸を持ちながら生きる、という事だそうです。ついつい慣例だからと、新しい事に挑戦出来ない言い訳を自分自身にしてしまう私としては穴があったら入りたい心境になってしまいま

した。

今年は少しでも新しい事に挑戦出来るよう、今出来る最善の事は何かを考えながら活動していきたいと思っております。

私の部長生活もすでに二年目に突入致しました。昨年は三名の青年部員の方が卒業され、気がつくると現在の部員の中で最古参になっておりました。今まではついつい先輩に甘えておりましたが、今年からは独り立ち出来るよう、これまでに以上に身を引き締めて参りたいと存じます。

任期はあと一年足らずとなりますが、小樽支部の先生方、先輩方、青年部部員の皆さん方にはご迷惑を多々お掛けするかと存じますが、どうぞご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

平成二十五年 行事報告

●二月十日(日)  
 通常総会  
 (小樽市公会堂・一号室)

●三月十一日(月)  
 東日本大震災慰霊呈茶  
 (三井住友海上 小樽支社)

●三月十七日(日)  
 正午の茶事 体験勉強会  
 (ルネッサンスホテル・花城)

●四月十四日(日)  
 例会・新入部員歓迎茶会  
 (小樽市民センター・和室)

●七月二十一日(日)  
 ガラスの茶碗づくり体験  
 (創造硝子工房スタジオJ・45)

●十二月一日(日)  
 卒業茶会・懇親会  
 (小樽市公会堂・南樽軒  
 (レストラン村))

平成二十六年 行事予定

●二月九日(日)  
 通常総会  
 (小樽市公会堂・一号室)

●三月(予定) 例会・新入部員歓迎茶会

●七月(予定) 体験行事

●十月(予定) 卒業茶会・懇親会

## 「正午の茶事」勉強会

札幌ルネッサンスホテル 花城にて

中 田 明日香

三月十七日(日)、札幌ルネッサンスホテルにあります「花城」にてお茶事の勉強会を行いました。

この企画は、平成二十四年が五月に青年部ブロック研修会主管、そして九月には地区大会の主管と行事が続いた年でしたので、その慰労も兼ね、そして久々にお茶を楽しむみましょうと、青年部一同心待ちにしておりました行事でした。

お水屋に四名、お席入りは七名に分かれて、当日まで各々打合せや予習をすることとなりました。

普段なかなか社中で茶事をする機会がなかったり、有ったとしても先生の指導の元で「おんぶに抱っこ」で、いざ自分たちでするとなると???だったりと、どちらの側も改めて事前に勉強することが山ほどありました。

私は水屋の勉強をさせて頂きましたので、水屋四名に入らせて

いただきました。プロの方の懐石を準備するタイミングやその準備の仕方等を実際に体験することが出来る機会はなかなか無いので大変勉強になりました。また、担当されている方から様々なお話を聞くことが出来、社中での茶事で実践してみたいことばかりでした。

また、実際に自分たちだけで進めてみると段取りの難しさや、普段お稽古では教わっていることが出来なかつたり、気遣いが足りなかつたりと、改めて日々のお稽古の大切さを感じる機会となりました。

今回は折角だからということですが、「千鳥」も行ってみたのですが、亭主側も客側も慣れていないせいか、お互い手さぐりで確認しながらの千鳥となりましたが、そんな中でもやはり「やってみて良かった。」というのが全員の感想でした。

路地を使つての茶事体験は普段なかなか出来ないのが本場に貴重な勉強の場となりました。

また私個人としては、今回薄茶席のお菓子準備させて頂いたのですが、テーマや菓子器に合わせ考える難しさに加え、やはり大きさや色合い等が上手くいかず、改めて難しさを勉強させて頂きました。

今回の体験を今後の青年部の活動や社中での活動に活かしていきたいと思えます。これからも今回のような体験を通して今後に活かせる取り組みをしていきたいと思えました。

## 硝子のお茶碗作り体験

佐藤 由里子

七月二十一日(日)、朝里川温泉にあります創造硝子工房スタジオ J・45にて、青年部九名が参加してガラスの抹茶茶碗作り体験をしました。

最初にお茶碗の形を絵に書いてデザインを決めます。私はデザインを決めるのに最後まで迷いまし

たが、早い人はその時、もう吹き硝子体験をしていました。

熱々に熱した硝子が付いた、穴の開いた長い棒を口にくわえて回しながら息を吹いて硝子を膨らませていきます。好みの大きさに膨らみましたら、左手で棒を回しながら、右手ではさみの先を広げながら茶碗の形へと変化させていきます。

初めての作業に皆の顔は真剣です。ちから加減が難しく悪戦苦闘でしたが、楽しい体験でした。

作品が届くまでは一週間ほどかかり出来上がりを楽しみに待っておりましたら、予想以上に可愛らしい涼しげで素敵なお茶碗が届きました。工房の方が上手に手伝ってくださいったおかげですが、これは「ひとつだけ!」のオリジナルお茶碗です。そのお茶碗には、それぞれ手書きのメッセージカードが添えられていて、細やかな心配りに感激しました。

3 / 17日

# 「正午の茶事」勉強会

札幌ルネッサンスホテル花城



7 / 21日

# 硝子のお茶碗作り体験

創造硝子工房スタジオJ・45



卒業茶会



◆山田郁代

今年で内山さん、皆川さん、星野さんが青年部を卒業されるので、十二月一日(日)にささやかではありましたが、これまでお世話になった三名の先輩方に感謝の気持ちを込めて青年部で卒業茶会を開催させていただきました。

「卒業茶会は公会堂の茶室で開催したい」という皆の思いから、寒い季節ではありましたが南樽軒で行いました。

水屋とお点前の担当に分かれて準備を進め、懐石については水屋担当が分担して準備し持ち寄る事になりました。私は焼き物と八寸の担当になり自宅で何度か試作しましたが、なかなか上手く出来ませんでした。先生から「失敗も勉強のうち」と励まして頂き、何とか作ることが出来ました。大変でしたがとても良い勉強になりました。

他の料理を担当した皆さんもそれぞれに心を込めて一つ一つ丁寧に作られ、皆で協力して懐石を完成することが出来、卒業される先輩方が大変喜んで下さったことがとても嬉しかったです。

これまでいつも楽しく温かくご指導下さり、ありがとうございました。



「ありがとう」の輪

皆川 久子

中山先生、ありがとうございます。おっちょこちょいな私にハラハラとアラアラの連続だったに違いありません。いつも温かく見守ってくださいました。幾歳になっても師に甘えられるのは幸せだなあ〜と暢気な事ばかり言っています。

青年部に送り出して下さりありがとうございます。今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。

先生方、ありがとうございます。大変お世話になりました。いつも笑顔で接してくださいました。多くの教えを頂きました。とても恵まれた環境の中で楽しく青年部活動をさせて頂きました。と、お礼申し上げます。ありがとうございます。卒業された先輩方、青年部の皆様ありがとうございます。宗家研修、炭屋旅館での夜咄茶事、全国大会、瓢亭の懐石、地区大会、ブロック研修会、リレー茶会、お楽しみ茶会、そして心尽くしの卒業茶会。南樽軒で初めてお客としてお茶を頂きました。見えるものが今までと違いました。お道具は！懐石のお献立は！と事ばかりにとらわれていましたが、四畳半に座ってみるととても広く感じました。そしてお花に感謝、お菓子に感動、亭主側の青年部皆さんの楽しそうな顔に喜び「今でしょう！」

正に今に心惹かれました。随所に行き届いた「おもてなし」に感謝しながら卒業させて貰いました。ただの流行語で終わらせる事無く、日々大切に精進してまいります。



卒業を迎えて

星野 敦子

この度、晴れて卒業することになりました。思い返すと長くもあり、短かったような、そしてよく札幌から通ったものだと自分を褒めたい気持ちです。ここ数年は会員が少ないという事もあり発案時は途方にくれながらも大きな行事に取り組み、不思議にやり遂げられる「うしおパワー」と団結力、何とか皆について行かなくては、迷惑をかけないようにという思いで今日まで来ることが出来ました。

今年からは応援団として部員の皆様のご活躍を陰ながら見守らせていただきたいと思えます。本当にお世話になりました。



二十五年の青年部活動を終えて

内山 富美子

「卒業茶会」をもって青年部を卒業させて頂けることがこんなにも感慨深いものだとは想像出来ませんでした。心温まるご案内状を頂き、当日のお茶事と懇親会、最初から最後まで青年部員皆さんの心尽くしそのものでした。感謝に絶えません。本当にありがとうございます。

今までの準備をさせていたたく立場では全く見えなかった世界が広がっていました。南樽軒が何と明るく、広く、楽しく、温かく感じた事でしょう。そして懇親会が心癒される楽しいひと時だったことでしょう。卒業生にならなければ判らない事が待っていました。青年部活動の中でなぜ、卒業という節目を大切に捉えている

のかが初めてわかりました。青年部員の皆さん、是非卒業を迎えてください。卒業を持ってして青年部活動が極細色に変化しますから。

私は十二月一日の心温まる卒業茶会と懇親会に送られ、二十五年近くの青年部活動が、まるでオセロの駒が黒から白へとパタパタ音を立てて変わっていくような心持ちに成りました。すべてがすばらしい思い出です。青年部に入部させて頂き本当に良かったです。感謝の思いでいっぱいです。

今から二十五年ほど前、まだ小樽青年部時代です。十和田社中からの幹事として十和田先生のご推薦をいただき内容もよく分からないまま会議に参加していたことが懐かしく思い出されます。その後、平成六年に「うしお青年部」が発足したのですが、私はそれがどういう改革で何が変わったのかも、あの時点ではさっぱり判りませんでした。

でも全国大会や宗家研修など、若さの勢いで何にでも先輩方に同行させて頂いたことが何よりの思い出もあり、本当に勉強させて頂いたいただきました。十和田先生からお声掛けを頂いていなければ私と青年部の出会いは無かったと思えます。そしていつも陰ながら支えて下さいました先生には改めて感謝申し上げます。

青年部活動を続けようか？迷った時に十和田先生が「止めたらそこまで。続けて得るものはいっぱいあるわよ。」とおっしゃいました。今の私がお言葉です。

また、研修会参加の帰り道、篠原先生が列車の中で「学んで身に着けた事は一生自分のものですよ。」とお話下さったことが心に残っております。

先生方、先輩方、更には後輩の皆さん、そして味のある同期のお二人、縁を頂きましたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

# 新入部員を迎えて

尾崎美雪



四月十四日(日)、小樽市民センターの和室にて新入部員入会の歓迎茶会をさせていただきました。

この日は田澤社中の篠谷さんと本村さんが出席して下さいました。

青年部も新体制となり、新しい役員での初めての試みでしたが薄茶のお点前によるお茶席で迎えさせて頂きました。

お席には「直心是道場」のお軸が掛けられ、春のうららかな日差

しと部員たちの和やかな雰囲気の中、楽しい時を過ごす事が出来ました。

茶会を取り入れた入会式は、茶道を歩む人同士の清々しさが溶け込まれていて、自然な温かさが生まれ、とても良い形だったと思います。

来年度も新入部員を迎えての歓迎茶会が行われることを楽しみにしております。

## 第42回 北海道ブロック研修会

主管：室蘭青年部



渡部淳子

五月十八日(土) 室蘭プリンスホテルで室蘭青年部主管による第四十二回北海道ブロック研修会が開催され、野田幹事長先生、十和田先生、荻野先生、萩原先生、坂倉先生と熊谷部長、中田さんと渡部で参加いたしました。先生方、共にご参加頂きありがとうございました。

青年部が新体制になり初めてのブロック研修会です。昨年の小樽と同様に単日開催でした。一年前、準備に追われていた事を思い出しながら

研修会に参加させて頂きました。呈茶でのお道具は海と工業の町という取り合わせでしょうか、色の綺麗な栄螺の水指やポルト人形で有名なポルタの三つ人形の蓋置きなど、遊び心がいっぱい楽しいお席でした。茶碗の柄は裏返すと北海道地図の周りにクジラの絵が描かれています。数は十七頭、新体制の十七青年部に合わせて作ったそうです。

研修の講演は白波瀬宗幸業躰先生による「台子からわび茶への流れ」と題し、室町時代の書院に飾ることを記した「君大親左右帳記」についてや京晝の目の数の話、利休による楽茶碗、竹の茶杓などお話も楽しく、とても興味深い内容でした。

懇親会では各テーブルに金屏風の前でお茶を頂いているポルタ君の置物が置かれ、後ほどのくじ引きでプレゼントされていました。

余興では室蘭青年部によるハンドベルの演奏が行われ、和やかな雰囲気の中、研修会は終わりました。

札幌以外の地方開催の研修会に参加したのは初めてでしたが、その土地ならではの趣向が楽しめた研修会でした。